

平成22年度林業機械化推進シンポジウムの開催について
 (「国際森林年」関連事業)

1 テーマ 『林業機械による日本林業のブレークスルー』

2 趣 旨

農林水産省では、平成21年12月に「森林・林業再生プラン」を策定し、「10年後の木材自給率50%以上」を目指すべき姿として掲げ、森林の多面的機能の確保を図りつつ、利用可能な段階にある人工林資源を活用した木材の安定供給体制の確立などを積極的に図ることとしました。本プランを着実に推進するためには、林業生産の作業システムの機械化や適切な路網整備により、利用間伐や素材生産の作業効率の向上やコスト削減を図ることが重要な課題となっています。

林野庁では、「先進林業機械導入・オペレータ養成促進緊急対策」及び「先進林業機械改良・新作業システム開発事業」を通じて、国内外の先進林業機械や木質資源の新たな利用に対応した機械等を導入して、現地の作業条件に適合するよう改良を行い、作業効率を飛躍的に向上させる新作業システムの開発を進めているところです。

今回のシンポジウムは「国際森林年」関連事業として実施し、先進林業機械改良・新作業システム開発事業の実施主体である株式会社自然産業研究所との共催により、先進林業機械の導入の取り組みを紹介するとともに、国内外の先進林業機械に関する情報の提供や意見交換等を行い、これからの我が国における林業機械化と作業システムのあり方を検討して、林業機械による日本林業のブレークスルーを図るものとします。

3 日 時 平成23年3月3日(木) 10:00~17:00

4 場 所 ベルサール秋葉原
(千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル)

5 次 第

開 会	(10:00~10:05)
主催者挨拶	(10:05~10:10)

第1部 先進林業機械に関する情報提供

- | | |
|---|---------------|
| (1)「先進林業機械の導入・改良事業等の紹介」
株式会社アミタ持続可能経済研究所 | (10:10~10:20) |
| (2)「林野庁の林業機械開発事業の概要」
林野庁研究・保全課 森林保護対策室長 中村 毅 | (10:20~10:30) |
| (3)講演①「日本における林業機械の課題と未来」
東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 酒井 秀夫 | (10:30~10:50) |
| (4)講演②「海外の林業機械の現状」
森林総合研究所北海道支所 地域研究監 佐々木 尚三 | (10:50~11:10) |
| (5)講演③「国内の林業機械開発の状況」
林業機械化協会 常務理事 内山 研史 | (11:10~11:30) |
| (6)講演④「架線系作業システムの現状とニーズ」
高知大学教育研究部自然科学系農学部門 教授 後藤 純一 | (11:30~11:50) |

(休 憩・昼 食 : 11:50~13:00)

第2部 先進林業機械導入・改良事業の参加事業者からの報告

- (1) 事例発表①: 大澤木材株式会社 (北海道) (13:00~13:30)
- (2) 事例発表②: 鶴居村森林組合 (北海道) (13:30~14:00)
- (3) 事例発表③: 有限会社藤原造林 (山梨県) (14:00~14:30)
- (4) 事例発表④: 日吉町森林組合 (京都府) (14:30~15:00)
- (5) 事例発表⑤: 有限会社向井林業 (岡山県) (15:00~15:30)

(休 憩 : 15:30 ~ 15:45)

第3部 パネルディスカッション

- (1) 「林業機械による日本林業のブレークスルー」 (15:45~16:55)

パネリスト: 林業機械化協会 常務理事 内山 研史
高知大学教育研究部自然科学系農学部門 教授 後藤 純一
東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 酒井 秀夫 (モデレーター)
森林総合研究所北海道支所 地域研究監 佐々木尚三
(五十音順)

- (2) 総括取りまとめ (16:55~17:00)

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 酒井 秀夫

閉 会 (17:00)